

つながりを大切にし、
かかわりを深める児童生徒の育成



ユネスコスクール便り

№119

令和4年12月13日
大牟田市13校
担当者通信

新たな「子どもおおむた大使」誕生！



大牟田市では、児童生徒が大牟田への関心を高め、郷土愛を育むきっかけのひとつとなるように、年間2回「子ども大牟田検定」を実施しています。

本検定では、全問正解を5回達成した児童生徒を「子どもおおむた大使」として認定しており、

これまで11名の児童生徒が大使として認定されてきました。

そして、9月に実施された第23回子ども大牟田検定において、見事に12人目の「子どもおおむた大使」が誕生しました。新たに大使となったのは、銀水小学校5年生の松延季咲さんです。季咲さんは5回連続で全問正解を果たし、最短での大使認定となりました。大牟田市役所議場で行われた認定式では、谷本教育長から認定証と副賞が手渡されました。子ども大牟田検定は、次回の第24回からオンライン形式での実施となります。冬休みの間に子ども大牟田検定ガイドブックを使ってしっかり学習し、郷土の良さについて学ぶ児童生徒が増えることを、また、13人目の大使が誕生することを期待しています。



特色ある実践事例の紹介



花でつながるあたたかいまちづくり

大正フラワータウンプロジェクト 大正小学校

大正小学校では、校区や大牟田のまちを「花で心がつながるあたたかいまち」にするために、地域の人と交流しながら花を育てています。また、お世話になった人たちに折り紙の花と手紙を手渡して、感謝の気持ちを伝えています。その取組の一つとして、今年度は5年生が駅前のロータリーに花を植えました。校区で花屋を経営されている磯濱さんをはじめ、多くの地域の方々のご協力により、ヒマワリ、ブルーラグーン、レモンスライスなどたくさん色鮮やかな花の苗を植えました。特に黄色いヒマワリと青のブルーラグーンには、子どもたちの平和を願う気持ちが込められています。このように、子どもたちは人々が優しい気持ちになる学校・地域を願い「大正フラワータウンプロジェクト」に取り組んでいます。



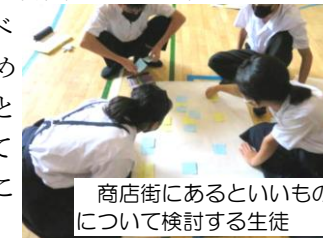
地域の方と一緒に花を植える子どもたち



住みやすく魅力ある大牟田のまちづくり 甘木中学校

甘木中学校の2年生は、「11 住み続けられるまちづくりを」をテーマにSDGs/ESDに取り組んでいます。昨年度は、大牟田のまちづくりについての話を聞いて、未来の仕事について考える活動を行いました。

ブレインストーミングの方法で「商店街にあったらいいと思うもの」「20年後30年後の仕事」について話し合い、新聞づくりを行いました。生徒たちは、「大牟田の未来についてよく調べることができた。大牟田の人口が減らないためにはどうしたらいいか、自分たちにできることはあるのか考えたい」「いろいろな意見が出て未来が楽しみだと思った」などの感想をもつことができました。



商店街にあるといいものについて検討する生徒